

日本医師会

赤ひげ大賞

対談

離島や過疎地などで地域住民に寄り添う医師の地道な取り組みに光を当てる「日本医師会 赤ひげ大賞」(主催・日本医師会、産経新聞社)が、創設から6年目を迎えた。高齢化が一段と進むなか、地域住民の健康を見守る「赤ひげ先生」への期待

はますます高まるばかりだ。日本医師会の横倉義武会長と、今回より特別協賛する太陽生命保険の田中勝英社長に、その意義や展望を聞いた。

司会 河合雅司・産経新聞社論説委員

田中氏 その通りだと思います。社会構造が変わってきて、生命保険の役割も変わってきました。少子高齢社会を迎え、生活の保障、自分が病気になったり介護状態になったりしたときの保障という役割が確実に大きくなってきています。われわれもお客さまが求めている商品・サービスを提供していきたいと考えています。

政府だけでなく医師会、生命保険会社、メディアを含め、民間のいろいろな職種が連携し取り組める、地域医療対策、認知症対策はたくさんあると思います。横倉氏 過疎地には、長い歴史を誇る「〆」も多々、平安時代から続いているような地域もあります。そこを、そのまま終わらせていいのかという思いがあります。地域に戻る方向性を、社会全

体が作っていかなくてはならないです。過疎化が進んでいる地域に安心を。横倉氏 過疎地には、長い歴史を誇る「〆」も多々、平安時代から続いているような地域もあります。そこを、そのまま終わらせていいのかという思いがあります。地域に戻る方向性を、社会全

社会から、生活に密着した形の医療提供体制に切り替えていかなくてはなりません。横倉氏 治すだけの医療でなく、療養型の医療が増えていくといわれていますが、民間保険会社として国や地方に期待することは何ですか。田中氏 私たちが期待するの

は、病気の早期発見や予防につながる健康診断などの仕組みが地方でさらに整備され、病気になる確率が下がります。その実現には、「赤ひげ先生」が多くの地方で活躍されていることが大事になってくると思います。横倉氏 地方にはかなり目が行きがちですが、実は東京の真ん中にもいろいろな地域があります。ま

ろなお話をされておられました。医学士たちは、さぞかし励みになったことだろうと思います。地域の医師の世代交代をサポートするためにも、先輩医師の姿を、後輩にきちんと見せたいという機会づくりや情報発信も大事になってくると思います。田中氏 幸せに生きていくためには、いろいろなことが必要だと思います。最先端の医療に生きる医師もいれば、一人一人を診ながら患者の人生を見守る医師もいます。そういうことに情熱を傾けて、地域に暮らす人々がすばらしい人生を送ることができるよう努力している医師の姿を、若い人たちに

た、社会的に弱い立場にある方々に対して一生懸命頑張っている医師をサポートしていく必要もあります。若い医師や医学士に、住民に密着した医療のすばらしさをどのように発信していくかが課題です。第5回表彰式に臨席いただいた皇太子殿下が、医学士にいろい

日本医師会会長 横倉義武氏



〈よこくら・よしたけ〉昭和19年8月9日生まれ。久留米大医学部卒。平成18年、福岡県医師会会長に。22年から日本医師会副会長を務め、24年から現職。

太陽生命保険社長 田中勝英氏



〈たなか・かつひで〉昭和29年7月20日生まれ。慶応大経済学部卒。52年、太陽生命保険入社。副社長営業本部長などを経て平成23年から現職。

高まる「かかりつけ医」への期待

「赤ひげ大賞」はこれまで計25人の「赤ひげ先生」を表彰し、多くの医師の励みとなる賞として育ってきました。改めてその意義を教えてください。横倉氏 私は平成24年に日本医師会の会長になった際、地域医療の再興を一番に掲げました。国民に「大病院で受診するのが一番」といった考えがあるなか、地域医療こそが医療の原点であることを訴えたいという思いがあったからです。しかし、過疎地域の医療は、だんだん手薄になってきているのが実情です。

背景の1つに、地域医療に情熱を持っていった医師が高齢化し、後継者が育っていない事情があると思います。医療とは、病気を持った人の人生をともに歩むことにはかなり重要です。その密着度は、地域になればなるほど濃厚になります。田中氏 これからの高齢者は退職してから何十年もの人生を過ごさずに、介護や医療に費やす不安が非常に大きくなっています。赤ひげ大賞を通じて、地域医

療のすばらしさを国民のみならず、特に地方の場合、医師が近くにいないと非常に不安になります。そういった不安を解消するために何らかの形で立てないかという思いから、「赤ひげ先生」を応援させていたことになりました。田中氏 昨年から、「太陽の元氣プロジェクト」という名前です。社員の元氣、お客さまの元氣、社会の元氣の3つのカテゴリーにわけて20・30の取り組みを展開して

います。社員向けのものとしては、山歩きをゆつくりすることによって血圧や血糖値を下げる効果が期待できるドイツ発祥の「グアオルト健康ウォーキング」への参加を推進しています。さらには「太陽生命グアオルトアワード」を創設し、アワードを受賞した市区町村のコースを整備やガイドの育成を支援しています。また、働き方も変えようと4月より60歳から65歳定年制に変更し、70歳まで継続的に仕事ができるよう雇用制度の改革を行いました。

横倉氏 「グア」はドイツ語で温泉という意味です。私もよく知っています。太陽生命保険は、業界で先駆的な認知症治療保険がヒットし話題になりました。発売の狙いは何だったのでしょうか。田中氏 一昨年から、70歳以上のお客さま60万人強を対象に訪問したところ、医療や介護への関心が、以前とは比較にならないくらい高くなっていることが分かりました。中でも不安材料として挙げられたのが認知症でした。それならば認知症にならないようにして、もしなった後でも治療できる保険をつくらうと思いい立ちました。昨年3月に売り出したところ22万件を超えるヒット商品になりました。認知症になったときの治療費を保障するだけでなく、まずは認知症にならないようさまざまな情報提供をしています。横倉氏 生命保険といえば、自身の亡き後、家族がちゃんと暮らしていけるようにするというイメージでした。時代とともに、生命保険に求められるものが変わってきたというところなのではないでしょうか。

横倉氏 「グア」はドイツ語で温泉という意味です。私もよく知っています。太陽生命保険は、業界で先駆的な認知症治療保険がヒットし話題になりました。発売の狙いは何だったのでしょうか。田中氏 一昨年から、70歳以上のお客さま60万人強を対象に訪問したところ、医療や介護への関心が、以前とは比較にならないくらい高くなっていることが分かりました。中でも不安材料として挙げられたのが認知症でした。それならば認知症にならないようにして、もしなった後でも治療できる保険をつくらうと思いい立ちました。昨年3月に売り出したところ22万件を超えるヒット商品になりました。認知症になったときの治療費を保障するだけでなく、まずは認知症にならないようさまざまな情報提供をしています。横倉氏 生命保険といえば、自身の亡き後、家族がちゃんと暮らしていけるようにするというイメージでした。時代とともに、生命保険に求められるものが変わってきたというところなのではないでしょうか。

日本医師会 赤ひげ大賞 日本医師会と産経新聞社が共同で、地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績をたたえて広く国民に伝えるとともに、次代の日本を支える地域医療の大切さをアピールする事業として平成24年に創設。全国の都道府県医師会から推薦された、病を診るだけでなく地域に根付き、その地域のかかりつけ医として生命の誕生から看取りまでさまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師から、選考委員会で毎年5人を選定し表彰している。江戸時代の小石川養生所を舞台に庶民の人生模様と「赤ひげ」と呼ばれる所長と青年医師の心の交流を描いた山本周五郎氏の「赤ひげ診療譚」にあやかって名付けられた。

おかげさまで大好評！

ひまわり認知症治療保険

認知症治療保険

太陽生命

おまかせください。お支払い手続きその場でサポート！

お支払い手続きの専門知識がある職員がシニアのお客様のもとへ直接訪問し、お手続きのサポートをいたします。

いかなキャット

【資料のご請求・お問い合わせは】お客様サービスセンター 0120-709-506 (通話無料)

http://www.taiyo-seimei.co.jp/ 太陽生命 検索